5、そだちネットワーク部会

【目的】様々な障がいや困り感をもっている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと ~3つの基本的柱~

①子どもの困り感や特性に合わせた支援

②家族の気持ちに寄り添う支援(障がい受容の伴走者であること) ③関係機関のネットワーク機能の充実

そだち
ネットワーク
部会発達障がい
支援フォーラム
実行委員会

●「お子さんやご家庭のニーズやタイミングに合わせて、学校や事業所等の現場から速やかにチーム支援につながる」地域体制の促進を目的とし.現場の支援者を対象とした北信圏域のチーム支援の活用を促す動画の制作を行っている。第5回の部会で完成披露予定。

柱①WG 子どもの支援

●「教育支援委員会」をテーマに自分の市町村での課題や他市町村と共有したいことを事前に聞き取り、 エントリーシートの記入方法や合理的配慮の進め方について、意見交換した。教育委員会の立場から課 題の共有や進め方の確認ができて良かったという流れで、合理的配慮について継続して意見交換してい く。

柱②WG 家族の支援 ●お子さんの特性の有無に限定されることなく、必要な家族には早期に支援が行き届くようなポピュレーションアプローチの方法について検討する。どのような機会づくりや情報の啓発がお子さんやご家庭にとって有用性が高いか、現在のニーズの分析と、北信圏域のしくみの整理を含め、検討していく。

柱③WG ネットワーク 充実 ●北信圏域の中で出生から義務教育までの途切れない支援体制の仕組みは充実してきたものの、義務教育終了後及び児から者へのつなぎの支援については十分とは言えないため、今年度はまずQ-SACCS等を用いて地域の現状を把握・整理する中で課題を抽出し、検討内容の具体化を図っている。